

仙人通信 105 金冠山(816m)・達磨山(981m)

金冠山・達磨山は、伊豆半島の付け根である修善寺と戸田のほぼ中央にあり、達磨山の山頂には一等三角点がある。修善寺から戸田峠に向かう県道 18 号の途中にある「達磨山レストハウス」に車を置いてピストンすることにした。

レストハウスの先にあるキャンピングスペース沿いにある階段から登山道はスタートである。

早朝に通過した前線は、登山道に米粒大のアラレをまき散らしたようだ。アセビ・桜・ハンノキ等のトンネルを 5 分程登ると芝生で整備した登山道となる。雪が積もったらスキー場のゲレンデの様だ。真白な富士山を稍越しに、山頂にパラポラアンテナの建つ金冠山を眺めながらの登りだ。

この時期、花こそないが、ウグイスが笹の中から春を告げる長閑さだ（今年初めてです～）。

30 分程で達磨山との分岐である。金冠山山頂まで 300m とある。木やコンクリートブロックで整備した階段を 15 分程登る。目の前に濃紺の駿河湾、その先に愛鷹山が富士山に抱えられる様に望める。

富士山の左側には北岳から赤石・聖・光岳の南アルプスが白く浮かぶ。右側には御坂・西丹沢・箱根が一望できる。北風で南に追いやられた雲が白い富士山に掛かり、一服の絵のようだ。

360°の展望を満喫して次の小達磨に向かう。10 分程で先ほどの分岐に戻り、コンクリートで整備された林道 500m で戸田峠である。ご存じのように戸田峠は西伊豆スカイラインの最北端でもある。

林道の下にはトンネル(金冠山トンネル)が顔を出す。達磨山に真直に向う階段の登山道が笹原に伸る。アセビの木で覆われた登山道は、火山灰である赤茶のローム層だ。アセビのトンネルを抜けると、腰丈の笹の原となり、先ほど登った金冠山の先に富士山から戸田の港町までが一望だ。

戸田に向い鋭く切り絶った崖が幾つかの沢を抱えている達磨山の馬蹄形カルデラが望める。登山道は、このカルデラの淵を登る。登山道の横には溶岩や火山灰が観える。

岩石の主体は、鼠色に斑点のしぞ輝石安山岩である。約 20 分で小達磨山の山頂である。

僅かに下るとスカイラインの出会いとなる。150m 程で達磨山の登山道となる。背中に富士山を感じながら木の階段を上る。砂嘴の伸びた戸田の町、青い海の向こうには、浜石岳や御前崎まで臨める。

最後の急登で(戸田峠から約 1 時間)一等三角点の山頂である。西側の切り立ったカルデラに対して、修善寺に向いなだらかに伸びる山容は成層火山を示す。かつては 1300m の標高があったとの事も理解できる。同じ一等三角点の万三郎を中心に天城火山・大室火山・天子火山・宇佐美火山・多賀火山群と伊豆スカイラインに沿って箱根まで連なる東稜線の山が、その先には西丹沢そして御坂山塊だ。

富士山には雲一つもなく見事の一言だ。富士山の左には天子ヶ岳等や南アルプスの前には竜爪山から始まる嶺が連なる。地図を広げて過去に登って来た山を見ながら、思い出すのも悪いものではない。のんびり眺めていると、奈良から青春切符で来られたと云う小生と同年配の女性が登ってこられた。何うと下山コースは同じとのこと、同行願いながら、山登りの話に花を咲かせている内にレストハウスに辿りついた。休憩入れて 3 時間半、何とも楽しい思い出の山登りが出来た 1 日でした。(h23.3.21)

富士山と南アルプス



戸田とカルデラ



達磨山山頂

